

バイオ環境学部 新種苗開発研究室 佐藤 隆徳

研究テーマ 地域密着型野菜の開発や普及により、亀岡地域の農業に貢献

‘かめまるいも’ の優良系統選抜

‘かめまるいも’は、「ダイショ」
と呼ばれるヤマノイモの仲間で、
原産地は熱帯から亜熱帯地域で
す。そこで、寒さに強くなるよ
う改良を行い、さらに、イモを
切った際に褐変せず、イモの形
状が球形に近い、優良個体の選
抜を継続して行っています。



‘京丹波菜’の品種改良

‘京丹波菜’は、今では姿を消し
た幻の葉菜‘丹波菜’をもとに、
京都先端科学大学で育成した新
しい品種です。コマツナによ
うな野菜ですが、夏場にも栽培
可能で、苦みは少なく、シャキ
シャキ感があり、サラダにも利
用することができます。



ナガササゲの新品種育成

ナガササゲ品種‘なつさや’は、
若莢を利用する野菜で、耐暑性
と耐乾性に優れ、京都地域にお
ける夏場の有望な野菜です。亀
岡地域での特産物となるように、
早生性で若莢が太短く、良食味
で多収性の新品種を育成してい
ます。



バイオ環境学部 食資源生産研究室 船附 秀行

研究テーマ 作物生産力向上のための遺伝・栽培研究

作物の新品種の利活用 のための条件解明

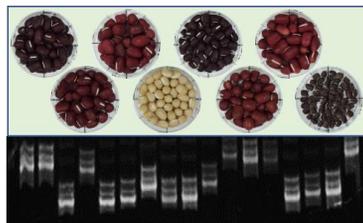
作物の新品種を亀岡地域で有効
活用するための栽培研究を行っ
ています。例えば、水稻もち品
種「やわ恋もち」の品質や生産
力の安定性の要因を解明するた
めの研究を行っています。



イネの遮光ポット栽培試験

京都在来アズキを利用 した画期的素材開発

京都府内に古くから伝わる在来
アズキ品種は、多様で貴重な性
質をもっています。そうした特
性をDNAレベルで解明して、大
粒白アズキなど、画期的品種の
素材開発を進めています。



京都在来アズキ品種の多様性
(上) 種子外観 (下) DNA

京都向け ソバ新品種の開発

ソバは農薬や肥料の大量投入が
不要で、また省力栽培できるた
め、注目される作物です。そこ
で、京都産のソバの生産性や品
質を向上させるため、新たな品
種開発を目指しています。



開花盛期のソバ畑